

# きべりはむし

## 第21巻 第2号

### 目 次

東播磨の甲虫相 (1)	高橋 寿郎	37
キイロミヤマカミキリ兵庫県下での記録	高橋 寿郎	43
オオサルハムシ神戸市内で採集	高橋 寿郎	44
ヒラズゲンセイ三木市に産す	森 和夫	48
ムギヒサゴトビハムシの食草について	森 和夫	50
ユリクビナガハムシ神戸市押部谷町に産する	森 和夫	51
西宮市におけるチビサクラコガネの追加記録	伊藤 武	51
加古川市坂本町のマグソコガネ類	森田 真澄	52
加古川市でのコカブトムシの採集例	森田 真澄	52
宝塚大橋で採集した蛾 (続報その10)	新家 勝	53

県関係文献紹介

県関係・学会・同好会誌・連絡誌

会員異動

兵庫昆虫同好会

1993年11月

# 東播磨の甲虫相(1)\*

高橋 寿郎

はじめに

東播磨といわれている地域はどちらかといえばいわゆる播磨平野のことばで代表されるような山岳的なものがない地域がその大部分を占める(調査地域内での最高峰は千ヶ峯 1,006mでその他代表的な山として笠形山 939m, 三国岳 855m, 篠ヶ峯 837mなどがあげられる)。

筆者はこの地域内での甲虫類を調べる機会に恵れその地域に生息する甲虫たちの概畧がわかったのではないかと考えられるのでここにそれを発表させて頂くことにした。

何といっても甲虫の種類数は非常に多く調査にしても種々の条件があり筆者が満遍なく調査したわけではなく(大変調査の手薄になっているグループも結構ある)そういった意味からは不充分なまとめになっていると思われるがこの地域での甲虫相の外貌でも知って頂ければ望外の喜びである。

同定についてはいくらか専門の方々に見て頂いたものもあるが大部分が筆者の手によりその点では浅学未熟の者の同定で誤りがあるかも知れず御教示御指摘を頂くことが出来れば幸である。この地域内での多くの文献からの記録も出来るだけとりあげた。この文献についてはあまりにも多いので筆者が別にまとめて出版している“兵庫県産甲虫類に関する文献目録, 1975. 同改定版, 1981. 同追加篇 I, 1984. 同追加篇 II, 1993”(全部で1830篇を収録)を参照して頂きたいと思う。勿論これら文献からの記録は全部本報をまとめるに当たって収録してある。

この調査は1980年代まではほとんど筆者単独の調査が主体であるが1980年代以降は蜂谷幸雄氏の御協力を頂いている。ここに厚くお礼申し上げる。

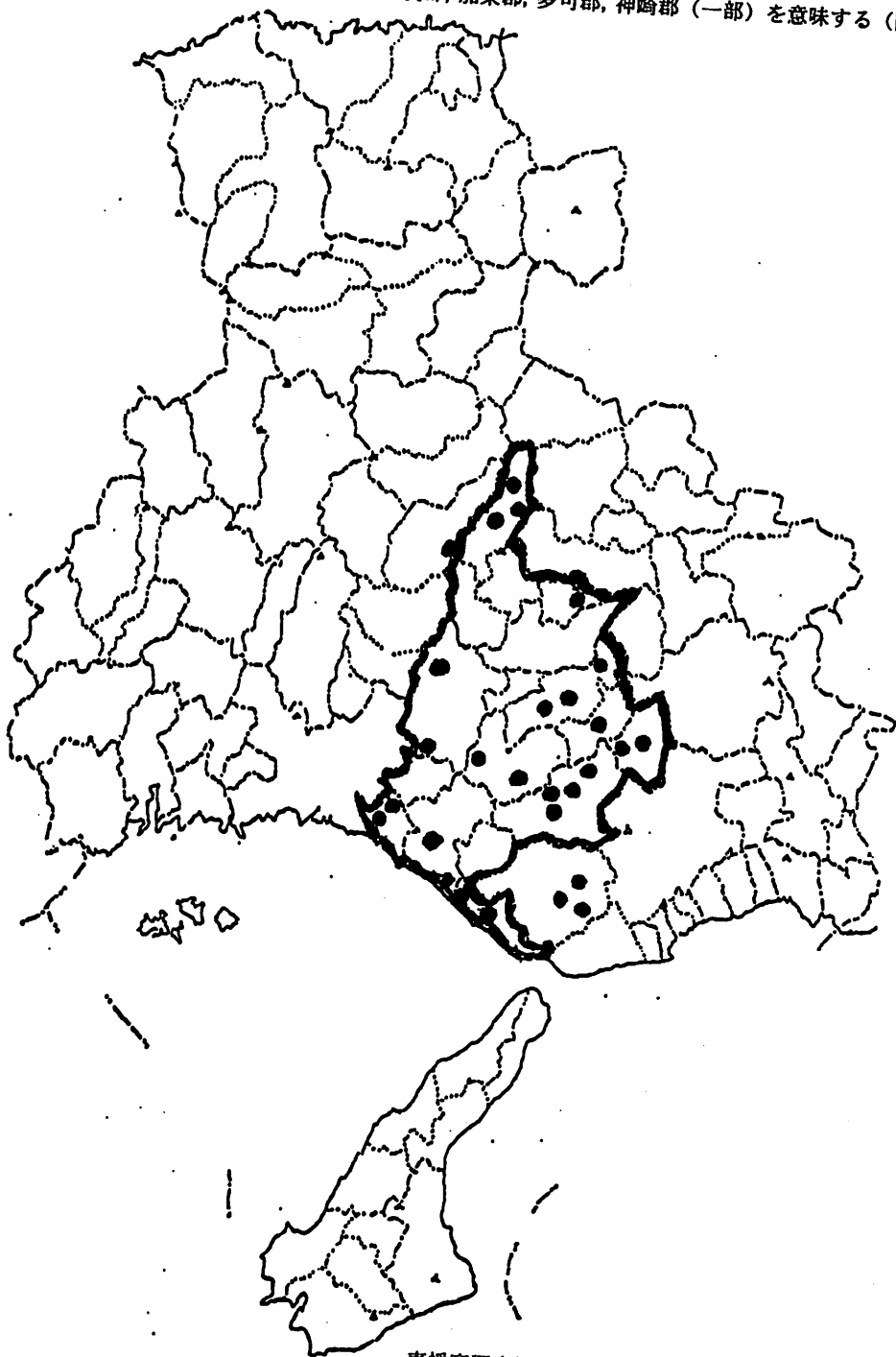
また前に記したように同定をお願いした先生方を始め多くの方々の御教示, 御援助を頂いている。一々此処に御芳名を記さないが厚く御礼を申しあげさせて頂く。  
尚今回都合で分割発表させて頂くことを御了承頂きたい。

調査範囲

神戸市須磨区の境川が摂津・播磨の境であることはよく知られているが此処にのべる東播磨とは大体次の範囲と承知頂きたい。

\*本報は“西播磨の甲虫相”“六甲山系を中心とした神戸並びにその近傍の甲虫相”との3部作の第1報である。兵庫県甲虫相資料・281

神戸市西部（多井畑は本来なら播磨ではないが本報では入れてある）、明石市、加古川市、高砂市、三木市、小野市、加西市、西脇市それに美濃郡、加東郡、多可郡、神崎郡（一部）を意味する（図参照）。



東播磨調査地域概略図

・調査地点（一つの地点で数回の調査を実施している。）

## 調査地域

今回の調査をまとめるにあたり筆者自身並びに蜂谷幸雄氏と協同調査、採集した地域と回数、年度は次の通りである。

神戸市須磨区多井畑	(1990・5回)
神戸市西区伊川谷	(1988・9回)
明石市明石公園	(1974～1979・20回)
明石市大久保町大窪	(1973・1回)
明石市江井ヶ島・林崎	(1975・1回)
加古川市加古川畔	(1975・2回)
加古川市上荘町町白沢	(1991・4回)
加西市志方町一乗寺・法華山	(1965～1976・3回)
加西市畑・加西S・A	(1974・4回)
三木市美褒川々原	(1978, 1979・7回)
三木市細川町	(1985・6回)
三木市口吉川町桃坂・東中・裾原	(1986・6回)
三木市口吉川町笹原	(1986・2回)
三木市福井地区	(1992・2回)
美褒郡吉川町	(1985, 1992・11回)
美褒郡吉川町奥山	(1986・4回)
小野市榊・山田町	(1987・7回)
小野市来住町	(1991・6回)
加東郡東条町森・岡本	(1984・7回)
加東郡社町上三草	(1987・5回)
加東郡社町下三草	(1989・4回)
加東郡社町・清水寺	(1972・1回)
神崎郡笠形山	(1966, 1975, 1976・3回)
多可郡黒田庄町白山	(1973・2回)
多可郡加美町市原	(1972・1回)
多可郡加美町鳥羽	(1972, 1975, 1976・6回)
多可郡加美町三谷	(1974～1976・11回)

以上1962~1992年の間に141回(調査地域は27地域)調査を実施している。

## 東播磨の甲虫相

### 1. 東播磨地域に生息する甲虫の種類数

今回のまとめをした結果東播磨に生息していると考えられる甲虫類は79科 1,046種であった。これらの種の目録は勿論別途作製してあるがあまりにも長文となるのでここでの発表は省略するとして科別種類数のみ次にまとめておく。括弧内の数字は兵庫県下から知られている種類である。

尚筆者の採集した標本は全部兵庫県立 人と自然の博物館に保管されている。

#### COLEOPTERA 甲虫目

Family Cupedoidae	ナガヒラタムシ科	1種(2)
Family Paussidae	ヒゲフトオサムシ科	1種(1)
Family Cicindelidae	ハンミョウ科	3種(10)
Family Carabidae	オサムシ科	85種(304)
Family Brachinidae	クビボソゴミムシ科	2種(6)
Family Haliplidae	コガシラミズムシ科	4種(5)
Family Noteridae	コツブゲンゴロウ科	2種(2)
Family Dytiscidae	ゲンゴロウ科	11種(39)
Family Gyrinidae	ミズスマシ科	4種(7)
Family Hydrophilidae	ガムシ科	18種(36)
Family Histeridae	エンマムシ科	18種(40)
Family Leiodidae	タマキノコムシ科	5種(16)
Family Catopidae	チビシデムシ科	2種(18)
Family Silphidae	シデムシ科	9種(18)
Family Scaphidiidae	デオキノコムシ科	14種(28)
Family Staphylinidae	ハネカクシ科	44種(283)
Family Pselaphidae	アリツカムシ科	1種(22)
Family Lucanidae	クワガタムシ科	7種(16)
Family Geotrupidae	センチコガネ科	3種(3)
Family Scarabaeidae	コガネムシ科	79種(147)

Family Eucinetidae	マルハナノミダマシ科	1種 (1)
Family Helodidae	マルハナノミ科	2種 (9)
Family Psephenidae	ヒラタドロムシ科	5種 (7)
Family Ptzlodactylidae	ナガハナノミ科	3種 (7)
Family Heteroceridae	ナガドロムシ科	1種 (1)
Family Elmidae	ヒメドロムシ科	1種 (13)
Family Buprestidae	タマムシ科	24種 (78)
Family Elateridae	コメツキムシ科	23種 (131)
Family Ometheidae	ホソホタルモドキ科	1種 (2)
Family Lampyridae	ホタル科	7種 (10)
Family Ometheidae	ホタルモドキ科	1種 (2)
Family Cantharidae	ジョウカイボン科	19種 (36)
Family Lycidae	ベニボタル科	13種 (36)
Family Dermetidae	カツオブシムシ科	10種 (16)
Family Anobiidae	シバンムシ科	4種 (18)
Family Trogostidae	コクヌスト科	1種 (5)
Family Cleridae	カツコウムシ科	3種 (17)
Family Melyridae	ジョウカイモドキ科	5種 (12)
Family Nitidulidae	ケシキスイ科	34種 (83)
Family Cybocephalidae	タマキスイ科	1種 (1)
Family Phalacridae	ヒメハナムシ科	5種 (13)
Family Sphnidae	ヒメキノコムシ科	3種 (13)
Family Cucujidae	ヒラタムシ科	5種 (14)
Family Silvanidae	ホソヒラタムシ科	4種 (11)
Family Cryptophagidae	キスイムシ科	6種 (16)
Family Helotidae	オオキスイムシ科	1種 (2)
Family Byturidae	キスイモドキ科	3種 (4)
Family Biphyllidae	ムクゲキスイムシ科	3種 (8)
Family Languriidae	コメツキモドキ科	3種 (7)
Family Erotylidae	オオキノコムシ科	11種 (33)
Family Corylophidae	ミジンムシ科	3種 (7)

Family Endomychidae	テントウダマシ科	5種 (19)
Family Coccinellidae	テントウムシ科	34種 (70)
Family Disculomidae	ミジンムシダマシ科	1種 (2)
Family Lathridiidae	ヒメマキムシ科	2種 (12)
Family Colydiidae	ホソカツムシ科	2種 (8)
Family Mycetophagidae	コキノコムシ科	3種 (12)
Family Ciidae	ツツキノコムシ科	6種 (13)
Family Tenebrionidae	ゴミムシダマシ科	39種 (93)
Family Lagriidae	ハムシダマシ科	5種 (8)
Family Alleculidae	クチキムシ科	10種 (16)
Family Tetratomidae	キノコムシダマシ科	1種 (4)
Family Salpingidae	チビキカワムシ科	3種 (6)
Family Pyrochroidae	アカハネムシ科	1種 (11)
Family Melandryidae	ナガクチキムシ科	4種 (44)
Family Scaptiidae	ハナノミダマシ科	1種 (8)
Family Mordellidae	ハナノミ科	2種 (51)
Family Meloidae	ツチハンミョウ科	3種 (6)
Family Oedemeridae	カミキリモドキ科	6種 (22)
Family Anthicidae	アリモドキ科	7種 (25)
Family Aderidae	ニセクビボソムシ科	4種 (6)
Family Cerambycidae	カミキリムシ科	95種 (291)
Family Chrysomelidae	ハムシ科	141種 (291)
Family Anthribidae	ヒゲナガゾウムシ科	18種 (43)
Family Attelabidae	オトシブミ科	22種 (54)
Family Apionidae	ホソクチゾウムシ科	6種 (19)
Family Curculionidae	ゾウムシ科	93種 (258)
Family Rhynchophoridae	オサゾウムシ科	2種 (15)
Family Scolytidae	キクイムシ科	11種 (47)

以上はじめにのべたように東播磨から記録された甲虫類は79科 1,046種でそれに対応した兵庫県産の甲虫類は79科 3,070種となる。

1992年末における筆者のまとめた兵庫県産の甲虫類は 111科 3,139種である（科数並びに種類数が異なるのは播磨地域から見つかっていない科並びに種が兵庫県には産するからである。）したがって大雑把にみて兵庫県産甲虫類の1/3の種類の子息が東播磨から見られることになる。

## キイロミヤマカミキリ兵庫県下での記録

### （兵庫県甲虫類相資料・282）

高橋 寿郎

キイロミヤマカミキリ *Margites (Margites) fulvidus* (Pascoe, 1858)の兵庫県下の記録は筆者の知っている限りでは神戸市本山〔関, 1941〕, 洲本市三熊山〔金田, 1978〕の2例しかなくかなり珍しいカミキリムシのように思う。



キイロミヤマカミキリ

*Margites fulvidus* (Pascoe, 1858)  
神戸市北区藍那 1993年5月21日採集  
♀ 体長19mm  
U.Hachitani Photo.

1993年5月21日神戸市北区藍那でゼフィルスをねらって高い所にある栗の花を捕虫網ですくっていた蜂谷幸雄氏が身体のおそばに飛んで来たカミキリムシを採集された。それを筆者が頂き帰宅後調べたところキイロミヤマカミキリの♀（体長19mm）であった。さらに6月28日同じ藍那でこんどは栗の花を捕虫網ですくって1♀（体長17mm）が採集出来た。前回の場所とそれ程離れた所ではなかった。三熊山では燈火に來たとある。ほとんど県下での記録が知られていないようなので此処に記録しておく。

寄生植物としてスダジイ、ツブラシイがあげられている（日本産カミキリムシ検索図説, 1992）。

分布からして南方系種のようなのである。



記録についての参考文献

- 関 公一 (1941) 兵庫県産の天牛科甲虫.  
昆虫界 9 (89):27.
- 金田 昌七 (1978) 淡路より未記録のカミキリ3種.  
Parnassius (19):15.

オオサルハムシ 神戸市内で採集

(兵庫県甲虫相資料・283)

高橋 寿郎

オオサルハムシ *Chrysochus chinensis* Baly, 1859 は種名にあたるようにBaly氏によって北部中国産で1859年記載された種である。日本からは同じくBaly氏によって1874年に Hiogo [現在の神戸市] を記録されたのが始めてである。採集者は G. Lewis 氏である。この時 Lewis 氏によると山地にいる種であるとのコメントがついている。

Heyden 氏は1879年 Dr. Rein が本種をやはり Hiogo (神戸) で得ていると記録している。

ここで本種についての分類学的経緯を筆者所有の文献でみてる。

1874年に出版された Dr. Gemminger と B. de Harold 氏による甲虫目録に本種は出て来るが分布は “China bor Sibiria” とあって日本はふくまれていない。

Lewis 氏による1879年の “日本産甲虫目録” には勿論出てくるがこれには産地も分布もついていない。

Schönfeldt, H. V. 氏の “日本産甲虫目録” (1887) には出て来て産地は Hiogo のみになっている。

1914年のユンクのカタログには分布は Nordchina, Amur, Japan, Korea となっている。

土井久作氏は1927年の論文で南満州公主嶺及び朝鮮の花山, 京城からの記録を示されると共に記載もされているし詳しい解説をしておられる。

松村松年博士は1931年カラーで図説をされた。その解説には本州及び朝鮮に産する普通種にして甘藷の葉を食害するとされている。出現期5-6月とされ分布は本州, 九州, 朝鮮, 満州, 支那となってい

る。

中條道夫博士は1938年九州から記録をされ、その後朝鮮（1940, 1941, 1941）、大連（1942）から記録をしておられる。

Gressitt, Kimoto 両博士の“中国、朝鮮のハムシ”の論文（1961）には多くの産地が示されている。

中條道夫、木元新作両博士の“日本産ハムシ類分類目録”（1961）では分布として N. China, Manchuria, E. Siberia, Korea, Japanとある。

木元新作博士の“日本及び琉球のハムシ”論文（1964）では福岡での産が記録されている。

1978年出版された Kim 氏の“朝鮮産昆虫の分布地図”では本種がわりと朝鮮では広く分布していることを地図で示されている。成虫の写真も出ている。

1980年木元新作博士まとめによる“日本産甲虫目録”では分布は E. Siberia, China, Korea, Japan (Honshu, Kyushu)となっている。1985年の同博士による“検索表による日本のハムシ類（Ⅱ）”でも同じ分布になっている。日本産本属は1属1種であるがこの属のものは旧北区、東洋区、新北区に分布するとある。ごく最近出版された“極東ロシアの昆虫分類”（1992）の中にも検索で示されているが図など全くついていない（ハムシ担当は L. N. Mededev 氏）。

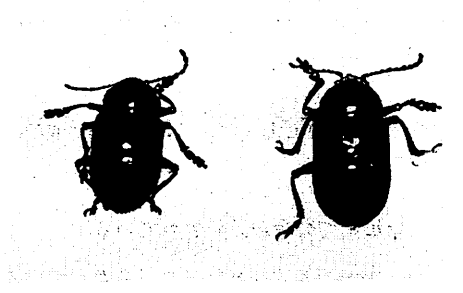
以上が大体筆者が所有している文献よっての本種の分類学的経緯である。その間原色による図説も勿論出版されている（1963, 1984）。したがって本種がどのようなハムシであるかということは良く知られていると思われるのだがいがいと日本における本種の分布状況が良くわかっていないような気がする。もっとも地方誌などを詳細に調べていないので大変不十分ではあるが日本ではあまり多く記録の見られないハムシのように思われる。

兵庫県下からの記録は始めに記した Baly, Heyden 氏の記録の2例以外山本義丸氏が氷上郡黒井町を記録されたのが知られているだけであった（1953, 1958）。

1984年蜂谷幸雄氏が加東郡東条町森で池畔をスイーピングして1頭を採集された（22-VI-1984）。この標本は蜂谷幸雄氏の御好意で御恵与に預かり現在県立“人と自然の博物館”に保管されている。この記録も今回初めて公表するものである。

さて1993年6月4日神戸市北区八多町屏風に蜂谷幸雄氏と調査に出掛けた際道路側の葉上に♂♀がいるのを見つけ手でつかまえた。田圃がすぐそばにあり道路との僅かな土手のような所であった。兵庫県下からの記録としても5番目のものであるがなんと云っても神戸市内からの記録としては114年ぶりのうれしい記録である。この種は原色でも図説されている通り（1931, 1963, 1984）ハムシとしてはやや大きく（体長9~10mm）しかも藍色の光沢のある美しいハムシで（中根博士の図は紫色の標本が図示されている。このような色彩のものもあるだろう）。野外で出会えば間違いなくわかるハムシだと思われ

る。食草はイヨカズラ、サツマイモとなっている。もっと詳しく調べたらまだ他の個体も見つかるのでは  
と思っている。このようなハムシが神戸市内に生息していることがわかり大変喜んで（6月10日再



オオサルハムシ *Chrysochus chinensis* Baly, 1859

神戸市北区八多町屏風にて1993年6月4日採集  
左♂体長8mm 右♀体長9.5mm (右後肢欠損)

U.Hachitani Photo.

調査に行ったが見つからなかった)。その後1993年  
7月15日午前11時30分頃神戸市北区藍那で田圃の水  
はけの水路の所で蜂谷幸雄氏が再度1♂を採集され  
た。同じ北区ではあるが距離としては若干離れてい  
る。ここでも他にいないかと詳しく調べて見たが見  
つからなかった。

現在本種の分布は日本では本州と九州とのみで国  
外では朝鮮半島、シベリア東部、中国となっている。

末筆になって申し訳無いが写真撮影をして下さっ  
た蜂谷幸雄氏に厚く御礼を申しあげる。

#### 参考文献

- J. S. Baly (1859) Description of new species of Phytophagous Beetles.  
Ann. Mag. nat. Hist. (3):4:125.
- J. S. Baly (1874) Catalogue of the Phytophagous Coleoptera of Japan,  
with description of the species new to science.  
Trans. ent. Soc. London 1874-Part. II:165.
- M. Chūjō (1938) Beitrag zur Kenntnis der Chrysomeliden-Fauna von Kyushu, Japan (2).  
Bull. Umeno Ent. Lab. No 6:7.
- M. Chūjō (1940) Chrysomelid-beetles from Northern Korea. Mushi 13 (1):4.
- M. Chūjō (1941) Chrysomelid-Beetles from Korea(III). Trans. Nat. Hist.  
Formosa 31 (209):63-64
- M. Chūjō (1941) First Supplement to the Fauna of Korea Chrysomelid-Beetles(1).  
Trans Nat. Hist. Soc. Formosa 31 (219):458-459.
- M. Chūjō (1942) Chrysomelid-Beetles from Kwantung-Province. Mushi 14 (2):55.
- M. Chūjō & S. Kimoto (1961) Systematic catalog of Japanese Chrysomelidae.

- Pac. Ins. 3 (1):142 .
- H. Clavareau (1914) Coleopterorum Catalogus, W. Junk. Pars. 59.  
Chrysomelidae :11. Eumolpinae:167.
- 土井久作 (1927) 朝鮮産葉虫科の研究. 動物学雑誌 39(466):330 .
- 土井久作 (1927). 南満州公主嶺附近より獲たる葉虫に就きて. 動物学雑誌 39(468):395 .
- Dr. Gemminger et B. de Harold (1874)  
Catalogus Coleopterorum Tom. XI. Chrysomelidae (Pars. I):3399.
- J. L. Gressitt & S. Kimoto (1961)  
The Chrysomelidae (Coleop) of China and Korea.  
Pac. Ins. Monog. 1A:297-298.
- L. v. Heydan (1879) Die coleopterologische Aubeute des Prof. Dr. Rein in Japan 1874-  
1875. Deut. Ent. Zeit. XXIII, Heft. II:362 .
- Lera, P. A, (ed.) (1992) Classification of Insects of Far East USSR. 3 (2) Coleoptera- 2  
[R]: 564.
- Lewis, G. (1879) Catalogue of Coleoptera from the Japanese Archipelago (London):  
28.
- C. W. Kim (1978) Distribution Atlas of Insects of Korea. Series, 2 Coleoptera:137,  
pl. xv, f. CH04.
- S. Kimoto (1964) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands. IV.  
Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ, 13(2):241-242.
- S. Kimoto (1980) Check-List of Coleoptera of Japan No.18. Family Chrysomelidae  
(Eumolpinae). p.3
- 木元新作 (1984) 原色日本甲虫図鑑 (IV).  
pl. 33, f. 20, P. 171-172. (保育社・大阪).
- 木元新作 (1985) 検索表による日本のハムシ類 (II). 昆虫と自然 20 (10):21.
- 松村松年 (1931) 日本通俗昆虫図説 第3巻 (甲虫之部). Pl. 17, f. 9, P. 75  
(春陽堂・東京)
- 中根猛彦 (1963) 原色昆虫大図鑑 (II) 甲虫編. pl. 165, f. 22, P. 330 (北隆館・東京)
- Schönfeldt, H. V. (1897) Catalog der Coleopteren von Japan mit Angabe bezuglichen  
Beschreibungen und der sicher bekannten Fundorte.  
Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturkunde 40:178.

- 山本義丸 (1953) 兵庫県丹波地方の葉虫相.  
兵庫生物 2 (3) :133 .
- 山本義丸 (1958) 兵庫県水上郡昆虫目録.  
Natura 特別号, 水上の自然第3集 :97.

## ヒラズゲンセイ三木市に産する

森 和 夫

ヒラズゲンセイ *Cissites cephalotes* Olivier は、トサヒラズゲンセイとも呼ばれる南方系の甲虫である。特異な体形、橙色の鮮やかな色彩と異臭、クマバチに寄生するという生態からしても珍虫に値する。南国である高知県においても稀なもののようなものである〔げんせい38.39 特集号 P. 57(1980) 参照〕。

今回、三木市において採集されたヒラズゲンセイを頂いた。三木市においては初めての記録であると考えられるので、下記のように報告する。

7月14日、神戸電鉄沿線の栄で開催された神戸生物クラブの例会に参加した際、植物関係を指導されておられる水野浩典先生と清水美恵子先生とに帰路ごいっしょになった。

この時、清水先生から「トサヒラズゲンセイを自宅で採集したが、四国や九州等の南方にいる珍しい虫ではないか?」とおっしゃってフィルムケースに入った1♂を出してこられた。全く思いがけない場所での珍種であり、採集された際の状況等も同った。

また、この個体の他にもう1頭採集し、御自宅に保管されておられるとのことであった。御自宅は、栄駅から2駅目で、すぐ近くであったため招待して頂いた。

もう1頭は♀であり、まだ生きていた。

また、採集された庭の環境も拝見させて頂いた。庭には溢れる程の種々の草木が植わっていて、採集された場所には、クマバチが吸蜜によく集まるといふ藤棚があった。

この藤棚は、丸太と竹を組み合わせたもので、よく見ると丸太の部分には丸い穴が開いていて、クマバチの巣であることがわかった。

御伺いした採集データは次の通りであった。

1) 採集地 ; 三木市緑ヶ丘町東

2) 採集者 ; 清水美恵子先生

3) 採集日等

① 22, VI, 1993. 1♂

庭のバケツの中に落ち込んでいたものを見付け、一度、逃がしたが、アジサイの葉上に止まっているものを採集。

② 6, VII, 1993. 1♀

縁側を這っているものを採集。

♀の個体は、生きていたものを頂いたため持ち帰った後、空瓶に木の葉を入れて飼ったところ7月26日迄生きていた。

標本は、いずれも筆者が保管している。

なお、筆者は、以前に神戸市藍那において本種1♂を採集し報告したことがある〔きべりはむし Vol. 14(2)P. 36 (1986)〕。

藍那へは、その後、7月上旬頃に2度調査したが、再発見することができずにいた。

藍那が、この付近では最も自然が残っている山間部であるのに反し、今回の採集地は、20年程前に開発されたという広い住宅地の真中にある。本種の飛翔は、部屋の中で飛ばした限りでは、余力強いものではなかった。とても、長距離を一挙に移動し分布を拡大する力は無さそうである。しかし、1齢幼虫のときクマバチの体毛に取り付き、巣まで運ばれて寄生するとのことであるため、この方法で周辺部の発生地から分布を広げてきた可能性が高い。

周辺部を精査すれば、もっと発生地が発見されそうである。なお、当地は藍那より北西約8kmの地点であるため、現時点においては国内の最北限の産地と考えられる。

最後に、貴重な標本を御恵与下さった上、生息環境も観察させて頂いた清水先生には、厚く御礼申し上げます。

## ムギヒサゴトビハムシの食草について

森 和 夫

以前、宝塚市西谷地区において、ムギヒサゴトビハムシ *Chaetocnema cylindrica* (Baly) の採集記録を報告した〔きべりはむし Vol. 19 (1) p, 23 (1991)〕。

今回は、当地における食草を確認することができたので報告する。

本種は、その後、先に報告した境野の他、下佐曽利でも採集できた。食草が各地に普通であるのに反し、今のところ、この2ヵ所の極めて狭い範囲でしか見出せなかった。

前述の2ヵ所で確認できた食草は、カヤツリグサ科の下記の2種であった。

① キンキカサスゲ

*Carex amplifolia dispalata* var. *takeuchii* (Ohwi) 12, VI, 1993, 境野

② アゼスゲ

*Carex thunbergii* Steud

29, V, 1993, 佐曽利, 12, VI, 1993, 境野

境野においては、キンキカサスゲとアゼスゲが混生し、いずれからも採集することができた。下佐曽利の発生地では、アゼスゲしか生えていなかった。

上記の食草の種名は、室井 綽博士に同定して頂いた〔学名は、原色日本植物図鑑、草本編（下）、保育社刊を参照した〕。

室井博士には、紙面を御借りして厚く御礼申し上げます。

ムギヒサゴトビハムシは、食草と共に自宅へ持ち帰り飼育した。しかし、食草は直ぐに枯れてしまったため、自宅周辺の雑草を代用とした。

よく食べた植物は、

- 1) イグサ科；イ、クサイ
- 2) カヤツリグサ科；ヒメクグ、タガネソウ
- 3) イネ科；スズメノカタビラ

であり、ススキ、ジュズダマ、メヒシバは好まないようであった。

また、最初は10数頭を飼育し、交尾もしていたが、産卵させることはできなかった。最後の1頭は、7月14日迄生存していた。

## ユリクビナガハムシ神戸市押部谷町に産する

森 和 夫

5月度の神戸生物クラブ例会に参加した際、オニユリの葉上より、ユリクビナガハムシ *Lilioceris merdigera* (Linné) の卵を採集した。葉には、食痕も残っていたが、成虫は見当たらなかった。

採集した卵は、自宅の庭にあるオニユリの葉を与えて飼育し、本種であることを確認した。

〈採集データ〉

神戸市北区押部谷町

9, V, 1993, 18卵

筆者採集

## 西宮市におけるチビサクラコガネの追加記録

伊 藤 武

チビサクラコガネ *Anomala schonfeldti* Ohaus, 1915 の西宮市における記録については、本誌11巻2号 P. 60(1983年)において、新家 勝氏が樋ノ口町の国道171号線沿いで採集されたものがあり、また高橋寿郎氏からの私信によると、新家 勝氏が、1992年に枝川町(おそらく浜甲子園団地と思われる)において多数採集されたことが知られている。筆者は、当地の東鳴尾町へ転宅後、約1年経過してから、この種の当地における分布に気がつき、2, 3の追加記録を得たので、以下に紹介する。

東鳴尾町 1♂, 1♀, 20-VI'93; 1♂, 27-VI'93; 1♂, 1-VII'93; 1♂, 2♀♀, 3-VII'93; 1♂, 5-VII'93

武庫川駅 1♀, 26-VI'93

甲子園駅 1♀, 25-VI'93

東鳴尾町のもは、自宅マンションの灯火に飛来したものと阪神電鉄武庫川支線の東鳴尾駅の灯火に飛来したものであった。上記の記録ともあわせると、本種は、おそらく西宮市全域で6月頃、小公園や団地などの敷地の草むらや芝生のまわりにある強い光源(灯火)を丹念に見回ることによってさらに発見されるものと思われる。現在、兵庫県では、当市と神戸市だけが産地となっているとのことであるが、次回は、近隣の都市の産出状況や東海地方にあるような8月の発生の可能性も調べてみたいと思う。



## 加西市坂本町のマグソコガネ類

森田真澄

加西市坂本町には犬の繁殖場が1軒あり約250頭の純血犬を飼育している。そこで甲虫類の採集をさせて貰った。以下はマグソコガネ類の採集記録である。

1. セマダラマグソコガネ *Aphodius nigrotessellatus* Motschulsky  
3exs. 14-III-1993, 犬糞.
2. マグソコガネ *Aphodius rectus* (Motschulsky)  
4exs. 26-XI-1992, 犬糞. 1ex. 3-IV-1993, 犬糞.
3. オオフタホシマグソコガネ *Aphodius elegans* Allibert  
1ex. 31-V-1993, 犬糞.
4. クロツツマグソコガネ *Saprosites japonicus* Waterhouse  
1ex. 12-VI-1992, 建物内で死体を拾った.

以上4種を記録したが、マグソコガネとセマダラマグソコガネは極めて多くの個体を目撃してる。この2種が犬糞分解の主体と思われる。クロツツマグソコガネは糞を精査したが発見できなかった。

なお、この繁殖場の近くのタチャナギ朽木よりチビクワガタ *Figulus binodulus* Waterhouseの成虫2頭と幼虫2頭を採集している。

## 加古川市でのコカブトムシの採集例

森田真澄

コカブトムシ *Eophileurus chinensis* (Faldermann)を1993年7月20日、加古川市平荘町中山においてコナラ巨木の根際落葉下より1♂、採集しているので報告する。なお同巨木根際にはコクワガタ *Macrodorcas rectus* (Motschulsky) 2♂とクリアアナキゾウムシ *Dyscerus exsculptus* (Roelofs) 1頭が見られ採取した。

## 宝塚大橋で採集した蛾（続報その10）

新 家 勝

宝塚大橋の電燈で1978、9から1987末までの10年間に採集した蛾は、18科 332種で、本誌の第9巻第1号から第17巻第2号にかけて12回に分けて報告させていただいた。1988以降も採集を続け、更に10年間の採集結果を先の10年間の結果と比べてみようと思っていたが、2つの理由で採集を続けられなくなった。1つは、蛾の集まる時間帯に減燈するようになったことである。蛾の多い時期には他の昆虫も多い。春から夏にかけて俗にいう羽蛾が多数発生し、ここの強力な電燈めがけて多数飛来する。また、夏から秋にかけてオオシロカゲロウが付近の流れで大群に羽化し、飛来することがある。こうした昆虫たちが、橋上の往来を妨害するので、日没とともに1/3に減燈するため、以前のように昆虫が集まらなくなってしまった。もう1つは、筆者自身の勤務が変わったため、頻繁にここで採集できなくなったことである。そこで、1988以降に採集した蛾については、10年を経ることなく、このあたりで報告することにした。なお、今回も、採集地はすべて「宝塚市」を省いて記載する。また、橋の左岸側半分で採集したものは「武庫川町」、右岸側半分で採集したものは「南口2丁目」と記載した。この地点は大部分が標準地域メッシュの52351268内にあり、南口2丁目側の一部が52351267内にあるが、この部分は、右岸側の上流側であって、風上であることが多いので昆虫は少ないうえ、人通りも多く、ほとんど採集をしていない。

### 1. Tortricidae ハマキガ科

(1) *Homona magnanima* Diakonoff チャハマキ (再), (平)

15-X-1988 武庫川町

(2) *Adoxophyes* Sp. チャノカクモンハマキ

10-IV-1990 南口2丁目

### 2. Psychidae ミノガ科

(1) *Eumeta japonica* (Heylaerts) オオミノガ (再), (平)

2-VI-1989 武庫川町

### 3. Limacodidae イラガ科

(1) *Latoia lepada* (Cramer) ヒロヘリアオイラガ (再), (平)

13-VI-1990 武庫川町

### 4. Pyralidae メイガ科

- (1) *Pseudargyria interruptella* (Walker) ホソスジツトガ  
10-V-989 武庫川町
- (2) *Chilo suppressalis* (Walker) ニカメイガ (再)  
10-V--1989 武庫川町
- (3) *Trichophysetis cretacea* (Butler) フタオビノメイガ  
15-IX-1989 武庫川町
- (4) *Cnaphalocrocis medinalis* (Guenée) コブノメイガ (再), (平)  
15- IX-1989 南口2丁目
- (5) *Conogethes punctiferalis* (Guenée) モモノゴマダラノメイガ (再)  
1-VII-1989 南口2丁目
- (6) *Nacoleia commixta* (Butler) シロテンキノメイガ (再)  
21-V-1989 武庫川町
- (7) *Notarcha derogata* (Fabricius) ワタノメイガ (再), (平)  
21-V-1989 武庫川町
- (8) *Palpita nigropunetalis* (Butler) マエアカスカシノメイガ (再), (平)  
12-VI-1988 武庫川町
- (9) *Glyphodes perspectalis* (Walker) ツゲノメイガ (再), (平)  
19-VII-1988 南口2丁目
- (10) *Bradina geminalis* Caradja モンウスグロノメイガ (再)  
19-VII-1988 武庫川町
- (11) *Herpetogramma luctuosalis* (Guenée) モンキクロノメイガ (再), (平)  
3-X-1988 武庫川町
- (12) *Ostrinia furnacalis* (Guenée) アワノメイガ (再)  
24-VII-1988 南口2丁目
- (13) *Ostrinia scapularis* (Walker) フキノメイガ (再), (平)  
10-V-1989 武庫川町
- (14) *Demobotys pervulgalis* (Hampson) トガリキノメイガ (再)  
29-V-1988 南口2丁目
- (15) *Anania verbascalis* (Denis & Schiffermüller) ヒメトガリノメイガ (再)  
11-VI-1990 南口2丁目
- (16) *Ambia acclaralis* (Walker) エグリミズメイガ

- 5-XI-1989 武庫川町
- (17) *Galleria mellonella* (Linnaeus) ハチノスツツリガ (再)
- 16-VI-1988 南口2丁目
- 2-VI-1989 武庫川町
- (18) *Craneophora ficki* Christoph ナカムラサキフトメイガ (再)
- 27-IX-1989 南口2丁目
- (19) *Aglossa dimidiata* (Haworth) コメシマメイガ (再), (平)
- 2-VI-1989 武庫川町
- 15-VI-1989 武庫川町
- (20) *Orthopygia glaucinalis* (Linnaeus) フタスジシマメイガ (再), (平)
- 14-V-1988 武庫川町
- 21-V-1989 武庫川町
- (21) *Herculia pelasgalis* Walker アカシマメイガ (再)
- 9-VII-1988 南口2丁目
- (22) *Endotricha portalis* Walker キベリトガリメイガ (再)
- 2-VI-1989 武庫川町
5. Drepanidae カギバ科
- (1) *Oreta loochooana* Swinhoe オキナワカギバ
- 5-XI-1989 武庫川町
6. Thyatiridae トガリバ科 (再)
- (1) *Habrosyne fraterna* Moore オオアヤトガリバ (再)
- 22-X-1988 武庫川町
7. Geometridae シャクガ科
- (1) *Thalassodes subquadraria* Inoue クスアオシャク (再), (平)
- 15-X-1988 南口2丁目
- (2) *Tinandra griseata* Petersen ベニスジヒメシャク (再), (平)
- 15-IX-1989 南口2丁目
- (3) *Scopula nigropunctata* (Hufnagel) マエキヒメシャク
- 27-X-1988 武庫川町
- (4) *Scopula personata* (Prout) ナミスジチビヒメシャク
- 14-VI-1988 武庫川町

- (5) *Scopula ignobilis* (Warren) ウスキクロテンヒメシャク (再)  
25- IX-1989 武庫川町
- (6) *Episteira nigrilinearia* (Leech) ウスミドリナミシャク (再), (平)  
15- X-1988 南口2丁目
- (7) *Xanthorhoe saturata* (Guenée) フトジマナミシャク (再), (平)  
12-VI-1990 南口2丁目
- (8) *Heterothera postalbida* (Wileman) シロシタトビイロナミシャク  
27- X-1988 武庫川町  
16-V-1989 南口2丁目  
6-XI-1989 南口2丁目
- (9) *Gassyma deletaria* (Moore) ヤマトエダシャク  
30-IV-1989 南口2丁目
- (10) *Plesiomorpha flaviceps* (Butler), Comb. n. マエキオエダシャク (再), (平)  
28- VI-1988 南口2丁目
- (11) *Synegia esther* Butler クロハグルマエダシャク (再), (平)  
21- X-1989 南口2丁目
- (12) *Luxiaria amasa* (Butler) トビカギバエダシャク  
21- X-1988 武庫川町
- (13) *Arichanna melanaria* (Linnaeus) キシタエダシャク (再)  
21-VI-1989 武庫川町
- (14) *Alcis angulifera* (Butler) ナカウスエダシャク (再), (平)  
23- X-1988 南口2丁目
- (15) *Ascotis Selenaria* (Denis & Schiffermüller) ヨモギエダシャク (再), (平)  
30-IV-1989 武庫川町
- (16) *Paradarisa chloauges* Prout ヒロバウスアオエダシャク (再), (平)  
11- X-1988 南口2丁目  
20- X-1988 武庫川町
- (17) *Biston robustus* Butler トビモンオオエダシャク  
4-III-1990 南口2丁目
- (18) *Odontopera arida* (Butler) エグリツマエダシャク (再), (平)  
17-XI-1988 南口2丁目

- (19) *Qurapteryx nivea* Butler ウスキツバメエダシャク (再), (平)  
 18- X-1988 南口2丁目  
 10- V-1989 南口2丁目  
 2- VI-1989 南口2丁目
8. Lasiocampidae カレハガ科  
 (1) *Gastropacha populifolia* (Esper) ホシカレハ (再)  
 24- IX-1989 武庫川町  
 (2) *Dendrolinus spectabilis* (Butler) マツカレハ (再), (平)  
 16-VI-1988 南口2丁目  
 15-IX-1989 武庫川町
9. Saturniidae ヤママユガ科  
 (1) *Actias gnoma* (Butler) オナガミズアオ (再)  
 26-IV-1988 南口2丁目
10. Sphingidae スズメガ科  
 (1) *Marumba gaschkewitschii* (Bremer & Grey) モモスズメ (再)  
 26- VII-1988 武庫川町  
 (2) *Callambulyx tatarinovi* (Bremer & Grey) ウンモンズズメ (再)  
 15-VI-1988 南口2丁目  
 (3) *Theretra nesus* (Drury) キイロスズメ (再), (平)  
 15-IX-1989 武庫川町  
 (4) *Theretra japonica* (Boisduval) コスズメ (再), (平)  
 16-VI-1988 武庫川町
11. Nototontidae シャチホコガ科  
 (1) *Phalerodonta manleyi* (Leech) オオトビモンシャチホコ (再), (平)  
 12-XI-1989 南口2丁目  
 (2) *Clostera anastomosis* (Linnaeus) セグロシャチホコ (再)  
 6-XI-1989 南口2丁目
12. Lymantriidae ドクガ科  
 (1) *Calliteara abietis* (Denis & Schiffermüller), comb. rev. スギドクガ (再)  
 5- X-1989 南口2丁目  
 (2) *Calliteara conjuncta* (Wileman), comb. n. スズキドクガ

- 28-VI-1988 南口2丁目
- (3) *Leucoma candida* (Staudinger) ブチヒゲヤナギドクガ (再)
- 28-VI-1988 武庫川町
- (4) *Lymantria dispar* (Linnaeus) マイマイガ (再), (平)
- 27-VI-1989 武庫川町
13. Arctidae ヒトリガ科
- (1) *Eilema deplana* (Esper) ムジホソバ (再)
- 20-VI-1989 武庫川町
- (2) *Eilema japonica* (Leech) キマエホソバ
- 15-VI-1988 南口2丁目
- (3) *Eilema cribrata* (Staudinger) ヒメキホソバ (再)
- 20-IV-1989 南口2丁目
- (4) *Lithosia quadra* (Linnaeus) ヨツボシホソバ (再)
- 12-IX-1989 武庫川町
- (5) *Paraona staudingeri* Alpheraky クビフウスグロクチバ (再)
- 21-VI-1989 武庫川町
- (6) *Spilosoma seriatopunctata* Motschulsky スジモンヒトリ
- 28-V-1989 南口2丁目
- (7) *Spilosoma bisecta* Leech セスジヒトリ (再), (平)
- 21-IV-1988 南口2丁目
- (8) *Spilosoma sabcarneum* Walker オビヒトリ (再)
- 30-IV-1989 南口2丁目
- (9) *Spilosoma inaequalis* (Butler) カクモンヒトリ (再), (平)
- 2-VI-1989 南口2丁目
- 24-IX-1989 南口2丁目
- (10) *Spilosoma lubricipeda* (Linnaeus) キハラゴマダラヒトリ (再), (平)
- 19-XII-1988 武庫川町
14. Noctuidae ヤガ科
- (1) *Trichosea champa* (Moore) キバラケンモン (再)
- 3-X-1988 南口2丁目
- (2) *Hylonycta carbonaria* (Graeser), comb. n. ウスズミケンモン

- 21-V-1988 武庫川町
- (3) *Viminia rumicis* (Linnaeus) ナシケンモン (再), (平)
- 3-VII-1989 武庫川町
- (4) *Craniophora fasciata* (Moore) シマケンモン (平)
- 19-IV-1989 南口2丁目
- (5) *Heliothis maritima* (Graslin) ツメクサガ (再)
- 21-V-1989 武庫川町
- (6) *Hermonassa cecilia* Butler クロクモヤガ (再), (平)
- 4-VI-1988 武庫川町
- 11-X-1988 武庫川町
- (7) *Sineugraphe longipennis* (Boursin) オオカバスジャガ (再)
- 8-VI-1989 南口2丁目
- 20-VI-1989 南口2丁目
- (8) *Diarsia deparca* (Butler) コウスチャヤガ (再)
- 11-X-1988 武庫川町
- 21-V-1989 南口2丁目
- (9) *Diarsia canescens* (Butler) オオバコヤガ (再)
- 6-V-1988 武庫川町 2ex
- 21-V-1989 南口2丁目
- (10) *Diarsia ruficauda* (Warren) ウスイロアカフヤガ (再), (平)
- 14-IV-1989 南口2丁目
- (11) *Xestia c-nigrum* (Linnaeus) シロモンヤガ (再)
- 18-V-1988 南口2丁目 2ex
- (12) *Manestra brassicae* (Linnaeus) ヨトウガ (再), (平)
- 9-VII-1988 武庫川町
- 19-VII-1988 武庫川町
- (13) *Sarcopolia illoba* (Butler), comb. n. シロシタヨトウ (再)
- 14-V-1988 武庫川町
- (14) *Mythimna turca* (Linnaeus) フタオビキヨトウ (再)
- 2-VI-1989 武庫川町
- (15) *Aletia placida* (Butler) クロシタキヨトウ (再), (平)



- 7-VI-1988 南口2丁目
- (16) *Acantholeucania loreyi* (Duponchel) クサシロキヨトウ (再), (平)
- 7-VI-1988 南口2丁目
- 19-VI-1988 南口2丁目
- 3-IX-1988 南口2丁目
- (17) *Conistra fletcheri* Sugi テンスジキリガ
- 5-V-1989 南口2丁目
- (18) *Sesamia inferens* (Walker) イネヨトウ (再)
- 11-X-1989 武庫川町
- (19) *Axylia putris* (Linnaeus) モクメヨトウ (再), (平)
- 12-VI-1988 武庫川町
- (20) *Athetis subargentia* (Caradja) エゾウスイロヨトウ (再)
- 8-V-1988 武庫川町
- (21) *Athetis dissimilis* (Hampson) テンウスイロヨトウ (再), (平)
- 4-VI-1988 武庫川町
- (22) *Athetis albisignata* (Orberthür) シロテンウスグロヨトウ (再), (平)
- 16-VI-1988 武庫川町
- 20-X-1988 武庫川町
- (23) *Athetis lineosa* (Moore) シロモンオビヨトウ (再)
- 7-VI-1988 南口2丁目
- (24) *Amphipyra pyramidea* (Linnaeus) シマカラスヨトウ (再)
- 4-XII-1988 南口2丁目
- (25) *Orthogonia sera* Felder et Felder ノコメセダカヨトウ (再)
- 28-VI-1988 南口2丁目
- 15-X-1988 南口2丁目
- (26) *Calloplistria juvenina* (Stoll) ムラサキツマキリヨトウ (再), (平)
- 28-VI-1988 南口2丁目
- (27) *Eutelia geyeri* (Felder & Rogenhofer) フサヤガ (再)
- 5-V-1989 南口2丁目
- (28) *Nycteola costalis* Sugi マエシロモンキノカワガ
- 17-XI-1988 南口2丁目

- (29) *Earias pudicana* Staudinger アカマエアオリング (再),(平)  
10-V-1989 武庫川町
- (30) *Pseudoips sylpha* (Butler), comb. n. アカスジアオリング (再)  
16-V-1988 南口2丁目
- (31) *Corgatha nitens* (Butler) シマフコヤガ  
20-VI-1989 南口2丁目  
11-VI-1990 南口2丁目
- (32) *Oruza glaucotornata* Hampson モンシロクルマコヤガ  
15-X-1988 南口2丁目
- (33) *Macdunnoughia purissima* (Butler) ギンモンシロウワバ (再)  
21-X-1988 武庫川町
- (34) *Autographa nigrisigna* (Walker) タマナギンウワバ (再)  
24-IX-1989 武庫川町
- (35) *Trichoplusia intermixta* (Warren) キクキンウワバ (再)  
30-IX-1989 南口2丁目
- (36) *Ctenoplusia albostrigata* (Bremer et Grey) エゾギクキンウワバ (再),(平)  
11-X-1988 南口2丁目
- (37) *Acathoplusia agnata* (Staudinger) ミツモンキンウワバ (再),(平)  
6-X-1989 南口2丁目
- (38) *Anadevidia peponis* (Fabricius) ウリキンウワバ (再),(平)  
16-X-1988 南口2丁目
- (39) *Ercheia umbrosa* Butler モンムラサキクチバ (再)  
28-VI-1988 武庫川町
- (40) *Lagoptera juno* (Dalman) ムクゲコノハ (再)  
18-X-1988 武庫川町
- (41) *Hypopyra vespertilio* (Fabricius) カキバトモエ (再)  
17-VI-1988 南口2丁目
- (42) *Perinaenia accipiter* (Felder et Rogenhofer) モクメクチバ (再)  
14-IV-1989 武庫川町
- (43) *Oraesia emarginata* (Fabricius) ヒメエグリバ (平)  
18-X-1988 武庫川町

- (44) *Oraesia excavata* (Butler) アカエグリバ (再),(平)  
26-V-1988 南口2丁目
- (45) *Dinumma deponens* Walker ウスツマクチバ (再)  
18-V-1988 南口2丁目
- (46) *Lacera procellosa* Butler ルリモンクチバ (再)  
12-VI-1988 武庫川町
- (47) *Aedia leucomelas* (Linnaeus) ナカジロシタバ  
4-XI-1988 南口2丁目
- (48) *Hypena indicatalis* Walker トビモンアツバ  
27-VI-1988 南口2丁目
- (49) *Hydrillodes repugnalis* (Walker) ソトウスグロアツバ (再)  
16-V-1988 南口2丁目  
23-X-1988 南口2丁目  
30-IX-1989 武庫川町
- (50) *Simplicia niphona* (Butler) オオアカマエアツバ (再)  
20-X-1988 武庫川町
15. Agaristidae トラガ科
- (1) *Sarbanissa subflava* (Moore) トビイロトラガ (再)  
21-V-1989 武庫川町

今回報告した蛾は、15科 121種であり、内訳を科別に示すと表のとおりである。参考のため表には先の10年間、つまり1978~1987の採集品の内訳も示してある。今回の3年間の結果を、先の10年間の18科 334種と比べると半数にも満たないが、3年間同士の比較のため1978~1980の11科 103種と比べると若干多い。採集をしていて感じるのは、何よりも飛来する個体数が減ったことであり、まったく見られなくなったものもあることから、ここで10年間採集を続けても、先の10年間程の結果は得られないだろうと心配していたが、この分ならそのような心配はいらないと思われる。このあたりでは、既に大掛かりな土地開発は行われていないので、自然環境の急変は考えられないことから、このあたりに生息する蛾が激減することはなさそうである。大きな人為的变化が加わらなくても、自然環境の文字どおり自然の推移に伴って蛾の消長もあることだから、いなくなるものがある一方新たに現れるものがあったとしても不思議ではない。今回の採集品 121種中、新たな採集品つまり先の10年間に採集していないものが24種あった。先の10年間についても、いつまでも新たに採集されるものがあった。目こぼししていたものが順

次、見つかったということもあるが、新たに飛来したり、発生するようになったりしたものがあるに違いない。ちなみに今回報告したもののうちオキナワカギバは、日本産蛾類大図鑑によれば四国南部、九州南部以南に分布するものであり、偶産か又は最近北限を広げたものかであろう。このように年々新しいものを採集できるのは、蛾は種類が多いことと移動が活発なことによると思われる。一方、先の10年間にも採れ今回再度採れたものと、付近の武庫川川原や付近の平地の草むら、社寺林、電燈でもよく見られるものがある。和名の後に(再)、(平)と表示したものがそれらで、それぞれ、97種、48種であった(再)としたものの多くは、長期にわたって発生し続けるかまたは飛来し続けているものであり、(平)としたものの多くは、付近の平地に広く発生しているかまたは飛来しているものであると考えてよさそうである。

ところで、この橋の上流約1kmに新宝来橋が架橋中であり、宝塚大橋同様多くの電燈が設けられ、かつ点燈時間に対する制限がきびしくなければ、従来、宝塚大橋に飛来していた昆虫がこちらへ集まると思われるので、新たな採集地点となるものと期待している。

#### 参考文献

日本産蛾類大図鑑 講談社, 1982

原色昆虫大図鑑 北隆館, 1972 (11版)

原色日本蛾類図鑑上, 下 保育社, 1977 (改訂新版)

きべりはむし第9巻第1号, 第2号

“ 第10巻第1号, 第2号

“ 第11巻第1号, 第12巻第2号, 第13巻第2号

“ 第14巻第1号, 第2号

“ 第15巻第1号, 第16巻第1号, 第17巻第2号

採集年等 科目	1988~1990	1978~1987								
		1978~1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	計
		第9巻 第1号 第9巻 第2号 第10巻 第1号	第10巻 第2号	第11巻 第1号	第12巻 第2号	第13巻 第2号	第14巻 第2号	第15巻 第1号	第16巻 第1号	
コウモリガ科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
ボクトウガ科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
ハマキガ科	2(1)	0	0	1	0	1	0	0	1	3
ミノガ科	1	1	1	0	0	0	1	0	0	3
マダラガ科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
イラガ科	1	0	3	0	0	0	1	0	2	6
メイガ科	22(3)	4	12	7	3	6	5	3	4	44
カギバ科	1(1)	2	0	0	1	0	0	0	0	3
トガリバ科	1	0	1	1	1	0	0	0	1	4
シャクガ科	19(6)	9	11	6	4	6	9	4	2	51
カレハガ科	2	4	1	0	0	0	0	0	0	5
テンサンガ科	1	4	1	1	0	0	0	0	0	6
スズメガ科	4	8	2	2	3	0	1	0	0	16
シャチホコガ科	2	6	3	1	0	2	0	0	0	12
ドクガ科	4(1)	4	6	1	0	2	0	0	0	13
ヒトリガ科	10(3)	7	4	3	1	0	1	0	4	20
ヤガ科	50(9)	55	20	16	18	17	8	2	8	144
トラガ科	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
計	121(24)	104	68	39	31	34	26	9	23	334

注1. 1978~1980, 1981, 1982, 1983, 1984の採集品については第14巻第1号による追加と訂正をして集計している。

注2. 1982の採集品については第17巻第2号による追加をして集計している。

注3. 1982の採集品についてはウスイロアツバの削除とナカアフトメイガの追加をして集計している。

注4. 1988~1990の採集数中( )内数字は、この間に新たに採集した種の数で内数。

## 県関係文献紹介

- 身近な生き物から見た姫路の自然. B5, 51p. (姫路市環境保全課 1993年3月刊)

この文献は姫昆サロンニュースNo.92 誌上にて相坂耕作氏が紹介されたのを拝見して同氏に御無理をお願いして1部御送り頂いたものである。

相坂氏の紹介文にもあるが環境保全課に勤務しておられる姫路昆虫同好会のメンバーの一人、大前晋氏が編集されたもので姫路市内の小学生6年生全員によるアンケート調査をまとめて姫路の自然度の評価を試みられたものである。14の生き物の内昆虫は5種類がふくまれている。この種アンケートによる調査では正しく認識、識別出来る生き物を選ばなくてはいけないと思われる(蝶が全然ふくまれていない)。自然度の評価として利用出来る。いろいろと参考になる所がある。

貴重な文献をお送り下さった相坂耕作氏に厚く御礼申しあげる。

- 森 正人・北山 昭著 図説日本のゲンゴロウ A5版. 218ページ(内カラープレート24p.) (1993年6月刊)(文-総合出版・東京)

日本産のゲンゴロウ類 117種を収録。カラー図版も美しい。他に形態や生態、飼育法についても記されている。特に兵庫県産のゲンゴロウ18種がカラー図と共に示され解説されている。中には新種ヤギマルケシゲンゴロウとか未記載種ムモンチビコツブゲンゴロウがふくまれており長い間生息が心配されていたムカシゲンゴロウ、メクラゲンゴロウも共に姫路市で最近採集されているといううれしい情報もふくまれている。兵庫県のゲンゴロウについての分布状況の説明もあり県関係の文献として重要文献である。

執筆者、森 正人氏は三田学園高校から北海道大学農学部を卒業現在北山氏と共に環境科学株式会社に勤務しておられる(環境科学株式会社の荒木 裕社長、永井正身部長には紹介者つねづね御世話になっており当会の会員として会を応援して頂いている)。

森 正人氏は三田学園高校の時ヤノコモンタマムシを採集された方でこの経緯は本会会員であった父上、森 博氏(故人)が本誌上に書いておられる(Vol. 7, No. 2, 1979)。

また森 正人氏が北海道におられる時多く標本を御恵送頂いた思い出がある。

素晴らしい書を出版されたことに心から敬意を表したい。

末筆になって、大変申し訳無いが本書を御恵与下さった環境科学 K. K. 荒木 裕社長ならびに著者、森 正人氏に厚く御礼申しあげる。

○ 宝塚の昆虫 IV. 甲虫目 (II).

B5, 224 p. 4カラー図版 (宝塚市教育委員会刊)

前に紹介させて頂いた (本誌Vol. 20, No. 2, 1992) “宝塚の昆虫 IV” として甲虫の後半部 (コメツキダマシ科~オサゾウムシ科) 38科 346~806 の 461種が収められている。生態を中心としたカラープレートが4p. ついている。各種は白黒写真で示されている。甲虫類は小さいものが多いのでそれを白黒写真で示すのはかなりむずかしいと思われる。斑紋等もほとんど白黒写真では表現出来ない。大変残念である。

これだけの報告をまとめられた努力に心から敬意を表したい。執筆は数名の方で分担しておられるが全体のまとめは東 正雄・小田中 健両氏である。

この貴重な文献を御恵送頂いた小田中 健氏の御好意に感謝を申しあげる。

○ 宝塚の昆虫V. 蛾類 (II)

B5. 290 p. 8カラー図版 (宝塚市教育委員会刊) 蛾類 (II) のマガリガ科からトリバガ科まで16科とヤガ科を合わせて 560種を各種毎に写真をつけて解説されている。大変な力作である。何人かの方による援助があるが全体のまとめは東 正雄先生である。このシリーズも後僅かであるがどれもまとめるのが難しいグループである。一日も早く完成することを願っている。

本書入手についてお世話になった新家 勝氏に厚くお礼申しあげる。

尚この“宝塚の昆虫, IV, V” 共に発行月日奥付には平成5年3月となっているが実際に出版また入手したのは7月である。

○ 久後地平. 兵庫県千種川のトビケラ相. シグマ: 平成4年度「研究生」報告書, 11 (1993): 37-48.

この報告についての紹介文は相坂耕作氏が姫昆サロンニュースNo.96に報じておられ相坂氏に御無理を云ってその別刷を御送り頂いたものである。表題のごとく千種川のトビケラ相の調査結果と将来への課題も示されている。色々と参考になる。採集されたトビケラの全種名が現段階では明らかに出来ないとのこと。いろいろの調査が行われても種名が確定出来ないことは致命的である。

○ 兵庫県自然教室編 自然観察マニュアルA5, 144 p. (1993, 8月. 長征社刊)

この欄で紹介する文献ではないと考えられるが20年来子供向けの自然観察会を行っている兵庫県自然教室がまとめた観察カード-子どものための観察カードモデル99選を収めてある。なかなかよく出来ている。

○ 自然環境研究所・淡路島の絶滅の恐れある野性生物 (I).

淡路島版レッドデータブック第1集.

奥谷禎一博士監修, 研究所代表登日邦明氏編集. B5版 51 p. 分布図, 写真多数 (1993年4月)

淡路島での絶滅が心配されている動植物約 100種のうち21種と植物群落1ヶ所が紹介されてる。昆虫

は6種であり内甲虫は2種取りあげられている。ゲンジボタルは淡路島ではすくなくなりつつあるよう  
だ。オオヒヨウタンゴミムシも何時迄生息してくれるのか心もとない現状のようである。

貴重な本書を御恵送下さった登日邦明氏に厚く御礼申しあげる。

## 県関係機関誌・連絡誌

(1993・IV－IX)

姫昆サロンニュース（姫路昆虫同好会）

No.90 (IV・1993). No.91 (V・1993). No.92, 93, 94 (VI・1993). No.95, 96 (VII・1993)  
No.97 (VIII・1993)

自然とともに（兵庫県環境管理課）

No.21 (IV・1993). No.22 (VII・1993)

IRATSUME（但馬むしの会会誌）

No.17 (V・1993)

混虫ずかん（但馬むし会連絡誌）

No.37 (IV・1993). No.38 (V・1993). No.39 (VII・1993)

ハーモニ（人と自然の博物館ニュース）

No.3 (III・1993) No.4 (VII・1993)

兵庫生物（兵庫県生物学会）

Vol. 10, No.4 (V・1993)

兵庫生物ニュース（兵庫県生物学会）

No.13 (V・1993), No.14 (VI・1993), No.15 (IX・1993)

宝塚の自然（兵庫県自然保護協会宝塚支部）

第7号 (III・1993)

のせ（大阪昆虫同好会連絡誌）

VOL. 22, No.1～9 (I・1993～VIII・1993)

兵庫陸水生物（兵庫陸水生物研究会）

No.43 (V・1993)



n/k通信 (ネイチャーアソシエーション)

No.13 (Ⅷ・1993)

PARNASSIUS (淡路昆虫研究会)

No.39 (Ⅸ・1993)

---

## 交 換 誌

KURAKON (倉敷昆虫同好会連絡紙)

No.30 (Ⅴ・1993)

富士市科学文化センター研究報告

第16号 (Ⅲ・1993)

IRATSUME (但馬むしの会誌)

No.17 (Ⅴ・1993)

神奈川自然誌資料

14 (Ⅲ・1993)

## 当会の新しい振替口座番号

既に御承知と思いますが平成6年5月から郵便振替の通常払込みは「新処理システム」により処理されるようになりますのでそれにとまなしまして口座番号次のように変わりますのでお知らせいたします。

現在の口座番号 神戸7 - 26646

新たな口座番号 01170 - 3 - 26646

## 会費納入についてお願い

1994年度会費 3000円

出費多端の折、恐縮に存じますが、会費納入を年内に同封振替用紙御利用の上、お願い申し上げます。

## 編集後記

- 本年は永梅雨、梅雨空け宣言後の戻り梅雨、はては梅雨空け宣言は無し、とにかく雨は多い、日照時間不足、冷夏、あまり経験のない年のようなようでした。台風襲来も多く、大地震の発生、自然現象の前にはなにも出来ないことを痛感させられます。虫の出現も例年とはだいぶ違っていたようです。
- 野外に出て虫と接する機会を見つけるのに苦労しました。皆様方にはいかがでしたでしょうか編集集子も若干の調査をさせて貰い新知見も得られ喜んでます。
- 久方振りに手持ち原稿が多くなり次号以後に繰りのべましたものが多くあり申し訳御座いません。本号も充実した内容に出来たと思いますが如何でしょうか？  
すでにVol. 22, No 1の原稿も揃っています。会費の方も宜しくお願い致します。

(T)

---

きべりはむし 第21巻第2号

1993年11月25日発行

発行：兵庫昆虫同好会

〒652 神戸市兵庫区氷室町1丁目44 高橋 寿郎方

振替 神戸7-26646

印刷：(株) 文 尚 堂

〒652 神戸市兵庫区下沢通3丁目4-11

---